

令和 8 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

夢をかたちに（ Scale up your Dream, and Build up your Future. ）

生徒が自らの進路に夢や希望を抱き、高い志を持ってその実現に向けて必要な力を身に付けるとともに、地域社会に積極的に参画し貢献できる人材を育成する学校をめざす。

【生徒に育みたい力】 日根野高等学校 校訓 「自立・共生・友愛」

1 主体的に考え行動することで、変化する社会に対応し、地域社会の発展に貢献できる力。〔自立〕

2 一人ひとりの多様性を理解し、人それぞれの違いを自然に受け入れ、支えあい、互いに認めあう社会を実現する力。〔共生〕

3 周りの人に対して思いやりの情を持ち、基本的人権を尊重し社会に奉仕貢献できる力。〔友愛〕

2 中期的目標

1. 授業改善を行い「確かな学力」を育成し、生徒一人ひとりの進路を実現する。

（1）主体的・対話的で深い学びを探究し、よりよく問題を解決することのできる力の育成をめざした授業改善を行う。

ア、教員間の相互授業観察や研究授業を推奨し、授業アンケートを活用した振り返りを丁寧に行い、授業力向上に取り組む。

イ、ICT 機器を効果的に活用し、生徒個々の能力に応じた最適な学びを提供する。

ウ、授業における生徒の言語活動を活性化し、協働的で対話的な学びを推奨し、学びの深化をめざす。

※授業アンケート総合スコア(令和 10 年度には 3.3 以上（R5 第 1 回 3.41 第 2 回 3.42、R6 第 1 回 3.42 第 2 回 3.44、R7 第 1 回 3.44 第 2 回 3.46)を維持する)

※生徒向け学校教育自己診断「ICT を活用した授業への満足度」（令和 10 年度には 85%以上(R5 84%、R6 94%、R7 92%)を維持する)

※授業アンケート「考える時間や発表する活動を多く取り入れている」（令和 10 年度には 3.3 以上（R5 第 1 回 3.34 第 2 回 3.38、R6 第 1 回 3.36 第 2 回 3.39、R7 第 1 回 3.40 第 2 回 3.44)を維持する)

（2）生徒一人ひとりの能力を最大化させた進路を実現する。また、専門コースを持つ普通科高校として、コースに特化した進路実現をめざす。

ア、本校のキャリア教育「ひねのプログラム」を推進し、生徒一人ひとりの夢の実現に向けて取り組む。

※生徒向け学校教育自己診断「進路や生き方を考える機会」（令和 10 年度には 85%以上(R5 91%、R6 92%、R7 95%)を維持する)

※国公立大学・難関私立大学（関関同立・産近甲龍）進学者数(令和 10 年度には 10%以上(R5 6%、R6 7%、R7 10%)とする)

※看護・医療系進学者数(令和 10 年度には 20%以上(R5 22%、R6 20%、R7 25%)を維持する)

※幼児教育・保育系進学者数(令和 10 年度には 5%以上(R5 7%、R6 4%、R7 5%)を維持する)

イ、コースや科目選択時のガイダンスを充実させ、生徒の進路実現を支援する。

※生徒向け学校教育自己診断「コース選択・科目選択への取り組み」（令和 10 年度には 85%以上(R5 85%、R6 91%、R7 91%)を維持する)

（3）生徒一人ひとりに寄り添った丁寧で細やかな指導を行い、夢の実現を支援し、生徒・保護者の満足度を向上させる。

ア、志学・道徳教育・人権教育・進路指導を系統的に結合したキャリア教育を行い、生徒の能力を伸ばす。

イ、多様な人材・機関と連携した学校づくりを推進し、外部機関の専門的な知見やフィールドを生かし教育内容を充実する。

ウ、優れた教育活動を展開し、その魅力を効果的に発信することで、地域から愛され、選ばれる学校をめざす。

※生徒向け学校教育自己診断「将来の進路や生き方をよく考える機会がある」（令和 10 年度には 85%以上(R5 91%、R6 92%、R7 95%)を維持する)

※入試志願者倍率(令和 10 年度には 1.10 倍以上(R5 1.09 倍、R6 0.97 倍、R7 1.07 倍)にする)

2. 豊かでたくましい人間性をはぐくむ

（1）人権・多様性を尊重する教育を推進し、差別やいじめを許さない意識、なくす実践力を育てる。

ア、「大阪府いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの未然防止・早期発見・早期解決に向け、組織的に取り組む。

イ、障がい者・女性・子ども・同和問題・在日外国人・性的マイノリティ等様々な人権に関わる問題の解決をめざした教育を推進する。

ウ、教科「情報」の授業や HR 等を通して情報モラル教育を推進し、情報社会における正しい判断や望ましい態度を育てる。

エ、社会性にも繋がる生活習慣の確立、挨拶の励行、他者を思いやる心の育成、善悪の判断ができる意志の育成等を図る。

※生徒向け学校教育自己診断「いじめについて困っていることがあれば真剣に対応」（令和 10 年度には 85%以上（R5 87%、R6 94%、R7 92%)を維持する)

※生徒向け学校教育自己診断「命の大切さや社会のルールを学ぶ機会」（令和 10 年度には 85%以上（R5 80%、R6 90%、R7 91%)を維持する)

※のべ遅刻者数/4-12 月末（令和 10 年度には 3,000 人以下(R5 4,398 人、R6 3,419 人、R7 3,618 人)とする)

（2）部活動、学校行事、ボランティア活動等への参加を通して、生徒の自己肯定感を高め、互いに認め合い協力しあう生徒を育成する。

ア、部活動、学校行事を活性化し、生徒が自主的に活動、運営することにより、自己肯定感を高め、互いに認め合い協力しあう生徒を育てる。

イ、地域と連携し、生徒の発信・発表の場を多く設けることで、社会の一員としての自信と自覚を深め、社会貢献の意義と尊さを理解させる。

ウ、生徒の自主性・自律性を尊重し、生徒会活動等を通して生徒の主体性を育て、自己実現を図る力を育成する。

※部活動加入率（令和 10 年度には 60%以上(R5 45%、R6 53%、R7 57%)とする)

※生徒向け学校教育自己診断「学校行事は楽しく行えるように工夫されている」（令和 10 年度には 85%以上(R5 82%、R6 90%、R7 90%)を維持する)

※生徒向け学校教育自己診断「先生の指導は納得できる」（令和 10 年度には 80%以上(R5 74%、R6 80%、R7 83%)を維持する)

（3）保護者・地域への情報提供を積極的に行い、保護者等の意見を教育活動に取り入れ、開かれた教育活動を推進する。

ア、保護者や地域との連携を深め、学校、保護者、地域が一体となった教育の充実を図る。

イ、多様な手段を用いた情報発信を行うとともに、情報収集を積極的に行い、意見を反映した学校経営を行う。

※保護者向け学校教育自己診断「保護者の相談に適切に対応してくれた」（令和 10 年度には 85%以上(R5 86%、R6 90%、R7 91%)を維持する)

※保護者向け学校教育自己診断「教育情報についての提供努力満足度」（令和 10 年度には 85%以上(R5 89%、R6 86%、R7 89%)を維持する)

3. 安全で安心な学び場を作るとともに、働き方改革を実現する。

（1）障がいのある生徒への理解を深め、SC 等の専門人材との連携を図りながら、合理的配慮や自立の支援を行う体制づくりを行う。

ア、「OSAKA CYCLE～5 つの C」の取り組みを推進し、不登校生徒の把握、教育相談体制を充実させ、中途退学・不登校の未然防止に取り組む。

（2）生徒の人権を尊重し、体罰やセクシュアル・ハラスメントの防止・根絶に向けて、学校全体として取り組む。

ア、生徒が相談をしやすい環境を整備し、関係機関と連携を深めながら、生徒支援体制の充実を図る。

※生徒向け学校教育自己診断「担任以外にも気軽に相談することができる先生がいる」（令和 10 年度には 80%以上(R5 77%、R6 83%、R7 84%)を維持する)

（3）危機管理を徹底し、安全で安心な学び場づくりを推進する。

ア、健康教育を充実させ、感染症、薬物中毒、食中毒等の予防や防止、熱中症や食物アレルギー等による事故防止に取り組む。

イ、自然災害等に備えた安全・安心な教育環境を確保し、避難訓練の実施等を通して安全教育を充実させる。

（4）教員の働き方改革に取り組む。

ア、業務の電子化を進め、事務作業量を軽減するとともに、会議の精選、会議時間の短縮を行い、校務運営の効率化に取り組む。

イ、全校一斉退庁日の取り組み等を推進し、教職員の時間外在校等時間の縮減を図る。

※「学校ストレスの総合リスク値」（令和 10 年度には 90 以下(R5 84、R6 82、R7 81)を維持する)

※年間「時間外在校等時間」の平均（令和 10 年度には 30 時間以下（R5 29 時間、R6 29 時間 R7 29 時間）を維持する)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 8 年 12 月実施分〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標〔R 7 年度値〕	自己評価
1. 授業改善を行い「確かな学力」を育成し、生徒一人ひとりの進路を実現する	（１）主体的・対話的で深い学びを探究し、よりよく問題を解決することのできる力の育成をめざした授業改善を行う	ア、教員間の相互授業観察や研究授業を推奨し、授業アンケートを活用した振り返りを丁寧に行い、授業力向上に取り組む イ、ICT 機器を効果的に活用し、生徒個々の能力に応じた最適な学びを提供する ウ、授業における生徒の言語活動を活性化し、協働的で対話的な学びを推奨し、学びの深化をめざす	ア、授業改善研修を 2 回実施する〔2 回〕 ・授業アンケート総合スコア 3.3 以上を維持〔第 1 回 3.44 第 2 回 3.46〕 イ、生徒向け学校教育自己診断「ICT を活用した授業への満足度」85%以上を維持〔92%〕 ウ、授業アンケート「考える時間や発表する活動を多く取り入れている」3.3 以上を維持〔第 1 回 3.40 第 2 回 3.44〕	
	（２）生徒一人ひとりの能力を最大化させた進路を実現する。また、専門コースを持つ普通科高校として、コースに特化した進路実現をめざす	ア、本校のキャリア教育「ひねのプログラム」を推進し、生徒一人ひとりの夢の実現に向けて取り組む 「ひねのプログラム」とは ・定期的に「進路意識調査」を実施し、進路に対する意識を明確化させ、知識を高める ・講師を招き、希望する進路に分かれての講話や説明会を実施する イ、コースや科目選択時のガイダンスを充実させ、生徒の進路実現を適切に支援する	ア、生徒向け学校教育自己診断「進路や生き方を考える機会」85%以上を維持〔95%〕 ・国公立・難関私立大学（関関同立・産近甲龍）の合格者数 20 名以上〔23 名〕 ・幼児教育・保育系合格者数 10 名以上〔11 名〕 ・看護・医療系合格者数 48 名以上〔56 名〕 イ、生徒向け学校教育自己診断「コース選択・科目選択への取り組み」85%以上を維持〔91%〕	
	（３）生徒一人ひとりに寄り添った丁寧で細やかな指導を行い、夢の実現を支援し、生徒・保護者の満足度を向上させる	ア、志学・道徳教育・人権教育・進路指導を系統的に結合したキャリア教育を行い、生徒の能力を伸ばす イ、多様な人材・機関と連携した学校づくりを推進し、外部機関の専門的な知見やフィールドを生かし教育内容を充実する ウ、優れた教育活動を展開し、その魅力を効果的に発信することで、地域から愛され、選ばれる学校をめざす	ア、生徒向け学校教育自己診断「将来の進路や生き方をよく考える機会」85%以上を維持〔95%〕 イ、外部講師による特別授業等年 30 回以上を維持〔34 回〕 ウ、入学者選抜志願倍率 1.10 倍以上を維持〔1.07 倍〕	
2. 豊かでたくましい人間性をはぐくむ	（１）人権・多様性を尊重する教育を推進し、差別やいじめを許さない意識、なくす実践力を育てる	ア、「大阪府いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの未然防止・早期発見・早期解決に向け、組織的に取り組む イ、障がい者・女性・子ども・同和問題・在日外国人・性的マイノリティ等様々な人権に関わる問題の解決をめざした教育を推進する ウ、教科「情報」の授業や HR 等を通して情報モラル教育を推進し、情報社会における正しい判断や望ましい態度を育てる エ、社会性にも繋がる生活習慣の確立、挨拶の励行、他者を思いやる心の育成、善悪の判断ができる意志の育成等を図る	ア、生徒向け学校教育自己診断「いじめに真剣に対応」85%以上を維持〔92%〕 イ、人権学習を各学年 3 回以上実施〔1 年（6 回）2 年（3 回）3 年（4 回）〕 ・教職員対象の研修を 2 回以上実施〔2 回〕 ウ、生徒向け学校教育自己診断「命の大切さや社会のルールを学ぶ機会があった」85%以上を維持〔91%〕 エ、のべ遅刻者数/4-12 月末 4,000 人以下を維持〔3,618 人〕	
	（２）部活動、学校行事、ボランティア活動等への参加を	ア、部活動、学校行事を活性化し、生徒が自主的に活動、運営することにより、自己肯定感を高め、互いに認め合い協力しあう生徒を育て	ア、部活動加入率 58%以上〔57%〕 ・生徒向け学校教育自己診	

府立日根野高等学校

	通して、生徒の自己肯定感を高め、互いに認め合い協力しあう生徒を育成する (3) 保護者・地域への情報提供を積極的に行い、保護者等の意見を教育活動に取り入れ、開かれた教育活動を推進する	る イ、地域と連携し、生徒の発信・発表の場を多く設けることで、社会の一員としての自信と自覚を深め、社会貢献の意義と尊さを理解させる ウ、生徒の自主性・自律性を尊重し、生徒会活動等を通して生徒の主体性を育て、自己実現を図る力を育成する ア、保護者や地域との連携を深め、学校、保護者、地域が一体となった教育の充実を図る イ、多様な手段を用いた情報発信を行うとともに情報収集を積極的に行い、意見を反映した学校経営を行う	断「学校行事は楽しく行えるように工夫されている」85%以上を維持[90%] イ、校外での上演、展示回数20 回以上[28 回] ウ、生徒向け学校教育自己診断「先生の指導は納得できる」80%以上を維持[83%] ア、保護者向け学校教育自己診断「保護者の相談に適切に対応してくれた」85%以上を維持[91%] イ、保護者向け学校教育自己診断「教育情報についての提供努力満足度」85%以上を維持[89%]	
3. 安全で安心な学び場を作るとともに、働き方改革を実現する	(1) 障がいのある生徒への理解を深め、SC 等の専門人材との連携を図りながら、合理的配慮や自立の支援を行う体制づくりを行う (2) 生徒の人権を尊重し、体罰やセクシュアル・ハラスメントの防止・根絶に向けて、学校全体として取り組む (3) 危機管理を徹底し、安全で安心な学び場づくりを推進する (4) 教員の働き方改革に取り組む	ア、「OSAKA CYCLE～5つのC」の取り組みを推進し、不登校生徒の把握、教育相談体制を充実させ、中途退学・不登校の未然防止に取り組む ア、生徒が相談をしやすい環境を整備し、関係機関と連携を深めながら、生徒支援体制の充実を図る ア、健康教育を充実させ、感染症、薬物中毒、食中毒等の予防や防止、熱中症や食物アレルギー等による事故防止に取り組む イ、自然災害等に備えた安全・安心な教育環境を確保し、避難訓練の実施等を通して安全教育を充実させる ア、業務の電子化を進め、事務作業量を軽減するとともに、会議の精選、会議時間の短縮を行い、校務運営の効率化に取り組む イ、部活動方針の順守や全校一斉退庁日の取り組み等を推進し、教職員の時間外在校等時間の縮減を図る	ア、教育相談支援委員会を7 回以上開催[8 回] ・転、退学者数を5 名以下[12 名] ア、生徒向け学校教育自己診断「担任以外にも気軽に相談できる先生がいる」80%以上を維持[84%] ア、教職員向け講習会及び生徒向け講習会を各1 回以上[1 回] イ、火災と地震を想定した避難訓練を各1 回以上実施する[火災1 回、地震1 回] ア、「学校ストレスの総合リスク値」90 以下を維持[81] イ、年間「時間外在校等時間」の平均 30 時間以内を維持[29 時間] ・年間の時間外在校等時間が720 時間を超える教育職員をゼロにする[2]	